

令和4年度

上勝中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかる授業・活躍の場がある授業の創造
- 家庭学習の習慣化
- 徳島県GIGAスクール構想の推進

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
濱 文和	校長 倉橋 誠一 教頭 山田 孝志 教務主任 春木 幸恵 1年主任 吉岡 璃緒 2年主任 福良 毅 3年主任 築地 靖幸

校長

倉橋 誠一

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全般的に素直で前向きで、何事にも真面目に取り組むことができる。 ●実力テストなどの出題範囲が広いテストでは、定期テストと比べ正答率が下がる。	・授業に真面目に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができる。 ・知識・技能の定着を図るため、家庭学習及びテスト前の学習に計画的に取り組むことができる。	・定期テストを廃止して単元末ごとにテストを行い、短期間で確認をしていくことで、知識・技能の定着を図る。また、テストごとに目標点を設定し、未達者は補充学習を行う。(目標点達成率80%以上) ・実力テスト前に部活動休止期間を設定し、計画的に学習に取り組む環境を作る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中に進んで発表し、課題に意欲的に取り組むことができる。 ○生徒数が少ないため、学校生活の中で一人一人が活躍する場面が多い。 ●思考力や長文での記述を必要とする問題では、他の問題と比べ正答率が下がる。	・自分の考えを、根拠や理由を明確にしながらか説明したり、書いたりして伝えることができる。 ・各授業における課題に対する話し合い活動を通して、解決する方法を考えることができる。	・毎日テーマを決めて、自分の考えや意見を生活記録に書かせ(3文以上)、コメントを書いて返す。 ・終学活で1分間スピーチを実施する。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ノーチャーム着席、朝の自習、エクストラスタディーズなど、基本的な学習規律を守って主体的に学習に取り組むことができる。 ●課題を期限内に提出することができていない生徒もいる。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・タブレットのドリル教材を活用し、生徒自ら学ぼうとする姿勢をつけさせる。 ・「何を」「どのように学ぶのか」が生徒に伝わるよう、「授業のめあて」「学習の流れ」を提示する。 ・学習サイクルを確立するように、単元末テストに向けた家庭学習を行うように支援する。(提出物の提出率90%以上)			

令和4年度 学力向上ロードマップ

